

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 2 月 28 日

事業所名 えびす夙川 スタッフ回答数:11

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11		・1日の利用定員を決め、時間帯や部屋やスペースを分ける等している ・開所時間を2部制に、定員人数を分けるなどして、コロナ禍で密な環境にならないように工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	10	(1)	・集団療育と個別支援がそれぞれ十分に実施できる配置をしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	3(1)	・フラットな設備にはなっているが、床が硬く薄い点は少し気になる。 ・必要に応じて見守りを行っている ・玄関前の階段は足の不自由な保護者にとっては、不便なご様子。	・支援実施に適切な環境整備に、随時努めていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	(2)	・気になった点などは、チームで振り返り、共有できていると思う。 ・毎回始まる前と終わってからの振り返りがあるので久しぶりに行っても安心します。 ・利用者支援に対する振り返りはなされているが、その他業務改善については振り返り等あまりみられない。 ・その都度、適切な参加者で集まってミーティングを開き、PDCAサイクルで取り組んでいる。	・業務改善についての意見を各職員から収集する仕組みづくりをし、随時取り組んでいく予定。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1(2)	保護者からご指摘やご要望がある場合は、できる限りの対応をしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	(4)	公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	1(4)	外部評価は実施していない。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	(3)		外部のオンラインの研修などに参加するように促しているが、職員の専門性向上のため今後さらなる研修企画が必要と考えている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	(1)	定期的なケースカンファレンスと保護者面談を実施し、支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1(3)		今後SSTプログラムのテーマに沿ったアセスメントツールを使用して行く予定。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	11		必要なミーティングを実施して立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		・子どもたちの実態や行事、季節、メンバーなどを考えて設定されていると思います。 SSTプログラムのテーマを月ごとに設定し、さらに利用者の状況に応じて臨機応変に対応できるようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	11			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	11		個別で実施する活動と集団で実施する活動はバランスよく実施できるように考えている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	(1)	・前日には自分がどこで誰に関わるのかわかるのでわかりやすいです。 毎日サービス提供時間前に当日の指導員が集合して役割分担等のミーティングを実施している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11		毎日支援終了後に指導員が参加するミーティングを開き、当日の支援内容について振り返っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11		インターネットシステムを活用し、毎日その日のうちにサービス提供記録を作成し、保護者に公開している。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	(2)	利用者ごとに設定されたモニタリング期間のうちに、モニタリングミーティングを開催し実施している。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	(4)			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	(3)	参加の依頼を受けたサービス担当者会議は児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	(4)	基本的には保護者を介してやりとりしているが、必要ときは直接情報共有の機会を作っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	5(1)	現状、対象になる利用者はいない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1(6)	入学前の本人中心支援会議に参加したときに主に情報共有を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	1(2)	保護者から依頼があれば実施している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1(7)	研修の機会があれば、できる限り参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3(8)	現状はコロナ禍でもあるので交流の機会は設定していない。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1(7)	管理者が参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		11	送迎時、メール、電話、面談などのツールを使用して随時実施している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2(4)		今後保護者の要望を確認しながら、企画していく見込みである。
非常時等の対応	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	(2)	契約時に説明している他、質問があれば随時対応している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	(2)	面談の機会はもちろん、日常的に随時実施している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3(6)		今後保護者の要望を確認しながら、実施していく見込み。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	(1)	その都度、事業所内、法人内で検討し、適切に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1(5)	インターネットシステムやメール、電話、誌面などを活用して、随時行っている。	
	35	個人情報に十分注意している		11	契約時に説明し、保護者や利用者本人の意向を確認し、保護者には個人情報同意書にサイン押印をいただいている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		11	アセスメントに基づいて、利用者に適した方法を実施している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	(7)	今年度はコロナ禍のため、実施せず。	
38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	(1)		今後も制度に基づき、整備する予定である。	
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	(4)	災害時の避難に関する知識を利用者に伝える機会を作っている。		
40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	(1)	外部での研修に参加したり、内部で補足しながら実施している。		
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10	(1)	保護者には契約時に内容を説明し、支援計画に記載している。		
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	(2)	保護者を介して、対応方法を確認している。		
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	(4)			